

第1回検討会の主な意見

・小児の診療について

- 全ての疾患を拠点病院に集めるべきではないが、カバー率に関しては、全体を見て考えるべき。地域、特に都道府県で小児がん対策を展開することが求められるのではないか。
- がん種と年代と地域の3つの組み合わせで、どこの地域においても同じ要件で認定するのは難しいのではないか。
- 脳腫瘍については、2年に1例とか2例しか診ない施設がたくさんあることが問題であり、その情報を患者に提供する必要がある。
- 脳腫瘍拠点病院を作れば、脳腫瘍の患者さんの一貫した診療ができるのではないか。
- 看護については、小児がんを専門にみる看護師の要件をつけるべきではないか。

・AYA世代の診療について

- 診療については、小児がん経験者でAYA世代になった患者さんとAYA世代で発症したがん患者を分けた方が良いのではないか。
- 小児専門施設の中だけで、小児だけを診ている病院と、小児・AYA世代を診ている病院を分けるべきではないか。
- AYA世代の場合は、がん種の多様性が拡がり、診療する病院がばらけているので、連携でもって支援体制の構築をすべきではないか。
- 小児がん拠点病院が成人のがん診療連携拠点病院等とネットワークを組むことを要件に盛り込むべきではないか。

・小児・AYA世代の支援について

- 15歳未満で発症した小児がん患者も、その後AYA世代になっていくので、支援についての課題は共通ではないか。
- 支援についてはシームレスに行うべきではないか。